

新規	18年度	17年度
----	------	------

第1号様式（第6条関係）

平成 年 月 日

地域コミュニティ活性化支援補助金交付申請書

世田谷区長 へ

フリガナ	トクテイヒエイリカツドウホウシロカコウエンハナノオカトモノカイ		
団体名 ※情報公開	(複数の団体で構成される団体の場合は、団体名の後に構成団体名内訳を記してください[別紙可]。) 特定非営利活動法人 芦花公園花の丘友の会		
フリガナ	タセヒロミ	フリガナ	
代表者 ※情報公開	団体内で氏名の職名 田瀬裕水 印	担当者	(代表者と同一の場合は不要)
住所	〒157-0063 東京都世田谷区粕谷1-6-17 田瀬方 日中の連絡先 電 (3303) 6562	住所	〒 日中の連絡先 電 ()

地域コミュニティ活性化支援補助金の交付を受けたいので、下記のとおり申請をします。

記

事業に要する経費 (内補助金申請額) ※情報公開		361,800 円	
	(300,000 円)	
事業名称 ※情報公開	「みんなのとんぼ池」 & 建設予定の「観察小屋」(仮称)を地域に活かす事業		テーマ番号 ※情報公開 1・2・3 ④・5・6 (主なテーマをひとつ選んでください)
事業のねらい 及び 実施内容 ※情報公開	(ねらい) 地域住民の協力によって完成した「みんなのとんぼ池」と今年度建設予定の「観察小屋」を地域住民に利用してもらうための事業。 (内容) とんぼ池メンバー、友の会メンバーを中心として、「みんなのとんぼ池」の整備、および「観察小屋」の建設を実施。地域住民に対して、自然観察会の開催や、観察小屋の周知、公開。「とんぼ池」の生態系などの情報提供、誰でもが利用することのできる自然観察の資料や本を整備する。		
事業に加えて いきたい 人・団体 ※情報公開	①地域の住民	具体的な対象(団体名や〇〇に住んでいる高齢者等) 烏山地域の全小学校・中学・高校、また、町会、商店街などに広く呼びかけ、メンバー参加および活動への参加者を募る。	目標数 70 人
	②他の団体	昨年同様、桜丘すみればの方々やNPO生態教育センターとの交流や講演の他、互いに情報交換や活動への協力くださる団体を増やす予定。	5 団体
事業に加わってもらうための 方法	ポスター・ちらし・地域情報誌・月1回の「花の丘フェスタ」・ホームページにおいて、烏山地域の全小学校・中学・高校、町会、商店街などに広く呼びかける。		

「※情報公開」と記された欄は、区のホームページ等で情報を公開いたします。

活動地域 ※情報公開	都立 蘆花恒春園 「みんなのとんぼ池」	
事業日程表	4月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察
	5月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察
	6月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」建設
	7月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」建設
	8月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」建設
	9月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」整備・運営 自然観察会
	10月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」整備・運営 自然観察会
	11月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」整備・運営
	12月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」整備・運営
	1月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」整備・運営
	2月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」整備・運営
	3月	「とんぼ池」環境整備活動&自然観察 および「観察小屋」整備・運営
19年度事業完了予定日	平成 20 年 3 月 31 日	

【団体名簿】 団体員数 86 名

	氏名	所属団体 (複数団体で構成されている場合)	住所	在勤・在学場所 (住所が世田谷区外の場合)
1	(代表者) 田瀬裕水	花の丘友の会	世田谷区粕谷 1-6-17	
2	櫛田博	花の丘友の会	世田谷区粕谷 3-21-5	
3	稲田信之	花の丘友の会	世田谷区松原 2-26-13	
4	小城かよ子	花の丘友の会	世田谷区桜上水 4-1-13	
5	吉沢明子	花の丘友の会	世田谷区粕谷 4-1-1	

- ※1 ここに記載する団体の構成員は、区内に在住・在勤・在学しており、実際に団体の運営に係わっている者であること。
 ※2 団員が5名以上の場合は、代表者を含め5名だけを記載してください。
 ※3 この名簿は、団体が5人以上で構成されているかを確認するものであり、この名簿で取得した個人情報、他の目的には一切使用しません。

第1号様式の別紙

見 積 書

【支 出】

(単位：円)

費 目	金 額		内 容 ・ 内 訳 (補助金を申請しないものについては▲をつける)
	予算額	内補助金申請額	
会場費			
消耗品費			
物品費	70,000	70,000	図鑑等書籍購入 2000円 × 15冊 = 30,000円 展示パネル&製作代 8000円 × 5枚 = 40,000円
複写・印刷費	137,000	97,000	ポスター 100円 × 40枚 × 8回 = 32,000円 チラシ 10円 × 3,000枚 × 3回 = 90,000円 自然観察会資料 50円 × 3枚 × 50名 × 2回 = 15,000円
通信費	76,800	65,000	郵送費 80円 × 80名 × 12回 = 76,800円
謝礼金	40,000	40,000	講師謝礼 20000 × 2回 = 40,000円
その他	38,000	28,000	ホームページ作成費 28000円 × 1 = 28,000円
合 計	361,800	300,000	

【収 入】

(単位：円)

費 目	金 額	内 容 ・ 内 訳
補助金	300,000	地域コミュニティ活性化支援補助金
会 費		
参加費		
その他	61,800	NPO 芦花公園花の丘友の会より負担
合 計	361,800	

①前年度の成果を踏まえた自己評価

※成果が得られた点、得られなかった点を踏まえ、どのように改善するかを記入

とんぼ池も完成から1年近くが経過した。その間に私たちの心配をよそに、想像を超える環境がまさに自然に整いつつある。水草等の定着、微生物発生、貝類の発生、とんぼ飛来による卵の産卵およびヤゴの生育、カエルの産卵～おたまじゃくし誕生等、最近ではカルガモまで飛来するようになった。また、公園内を散策する人々が立ち止まり池の話題に花が咲いているようである。一方、24時間公開されているために、魚や亀の投げ入れ、水草の投げ入れ等、本来の目的を妨害する行為も見られ、苦労している。

運営面では、メンバーの絆はより強くなり、毎月、「花の丘フェスタ」でも、活動資金集めに向け、楽しく協力体制が整い始めた。反省点としては、参加するメンバーがいつも固定してしまうこと、卒業やスポーツ活動への参加などにより、当初のメンバーの半数しか、継続登録されなかったことである。メンバーの確保が、これからの課題であろう。

②継続して補助を受ける必要性

※続けて支援を受けることで、前年度までに達成できなかったことが達成できるなど、必要性、有効性を記入

地域の財産である、「とんぼ池」および建設予定の「観察小屋」を、地域の方々に充分利用していただくためには、継続的な周知やイベント等が、必須となります。

特に今年は、観察小屋に整える備品や建設費も膨大であり、ファンド助成（500万円）を超える不足額を寄付金等で集める重責もかかっている。

建設にかかる人夫（大部分はメンバー＆ボランティアにて施工）不足を補うため、今年度は大々的に事業への参加者を募る予定もある。

地域に向けてのPR活動や、事業への参加呼びかけは、継続的に補助を受けることで実現し、その結果が事業やイベント事業に参加される人数拡大につながるのので、是非ともお願いしたいと思います。

③次年度以降、自立的に事業を実施していく計画について

※一緒に活動できる人を増やしたり、会費を集めたりするなど、自立した活動にしていく計画を記入

地域の財産である、「とんぼ池」および建設予定の「観察小屋」を、地域の方々に充分利用していただくためには、継続的な整備・運営・管理が必要となります。継続的なメンバーの拡大、特に地域に密着した近隣の児童や父兄の底辺を広げられるよう努力したいと思っている。

財政的には、現在会費は徴収しておりませんが、「花の丘フェスタ」等で、リサイクルや子どもたちが喜ぶゲームやおもちゃの販売を通して、活動資金を捻出しようとしています。